

されています。平成9年には国の登録有形文化財となり、「まち歩き」の見学スポットとして、庭園とともに人気を呼んでいます。

キャリアデザインの拠点として

平成17年、市は「キャリアデザインによるまちづくり」を施策のひとつとし、その拠点と位置づけたのが、郷土博物館と市民会館です。市では、この2施設を一体的に管理運営するため指定管理者制度を導入し、約30名の市民などで構成するNPO法人「野田文化広場」を19年度から指定管理者として選定しました。



キャリアデザインとは、市民一人ひとりが質の高い生き方（キャリア）を実現するために、自分の人生を総合的に見詰めなおして、自分らしい生き方の設計（デザイン）をし、実践する、という意味です。そのためには異業種、異分野など他の分野の人の生き方を知り、自分自身の生き方の幅を広げることが大切になります。郷土博物館・市民会館では、野田のまちや人がもっている「文化」の力を最大限活かして市民の交流を促進し、それぞれの生き方を考える機会となるよう支援を行っています。



市民会館利用者の声

趣ある場所で俳句の勉強

実籾 繁さん



市民会館で句会を開くようになって、40数年になります。例会を含めると、月に5、6回は開催してきましたが、趣のある建物の魅力と、庭園の

美しさは何ものにも代えがたいですね。都内から通う会員も、都会とは違う落ち着いた空間をとて

も気に入っています。文化財の中で活動ができることを、市民のみなさんにも知ってもらいたいですね。

を題材として開催しています。

市民が参加する多彩な展覧会
従来年1回だった特別展を、企画展年3回、特別展年1回の計4回に増やして、野田のさまざまな「文化」

学芸員の調査研究がベースとなる特別展では、醤油樽職人の技とキャリアに着目した展示や、「野田の夏祭り」と津久舞」をテーマに無形民俗文化財ともなっている祭礼の有り様を地元の保存会の方の協力を得て紹介、さらに今年度は博物館開館50周年を記念し、「建築家山田守と野田市郷土博物館」展と題し、郷土博物館設立にいたる野田の文化的背景、市民活動や、建築家山田守の人物像まで含めて展示しました。

一方、企画展は、より直接的に市民のキャリアデザインが支援できる「市民参加型」の形をとり、市民コレクション展、市民公募展、市民の文化活動報告展を、それぞれ市民個人、家族、商店、団体などが積極的に関わって、学芸員と